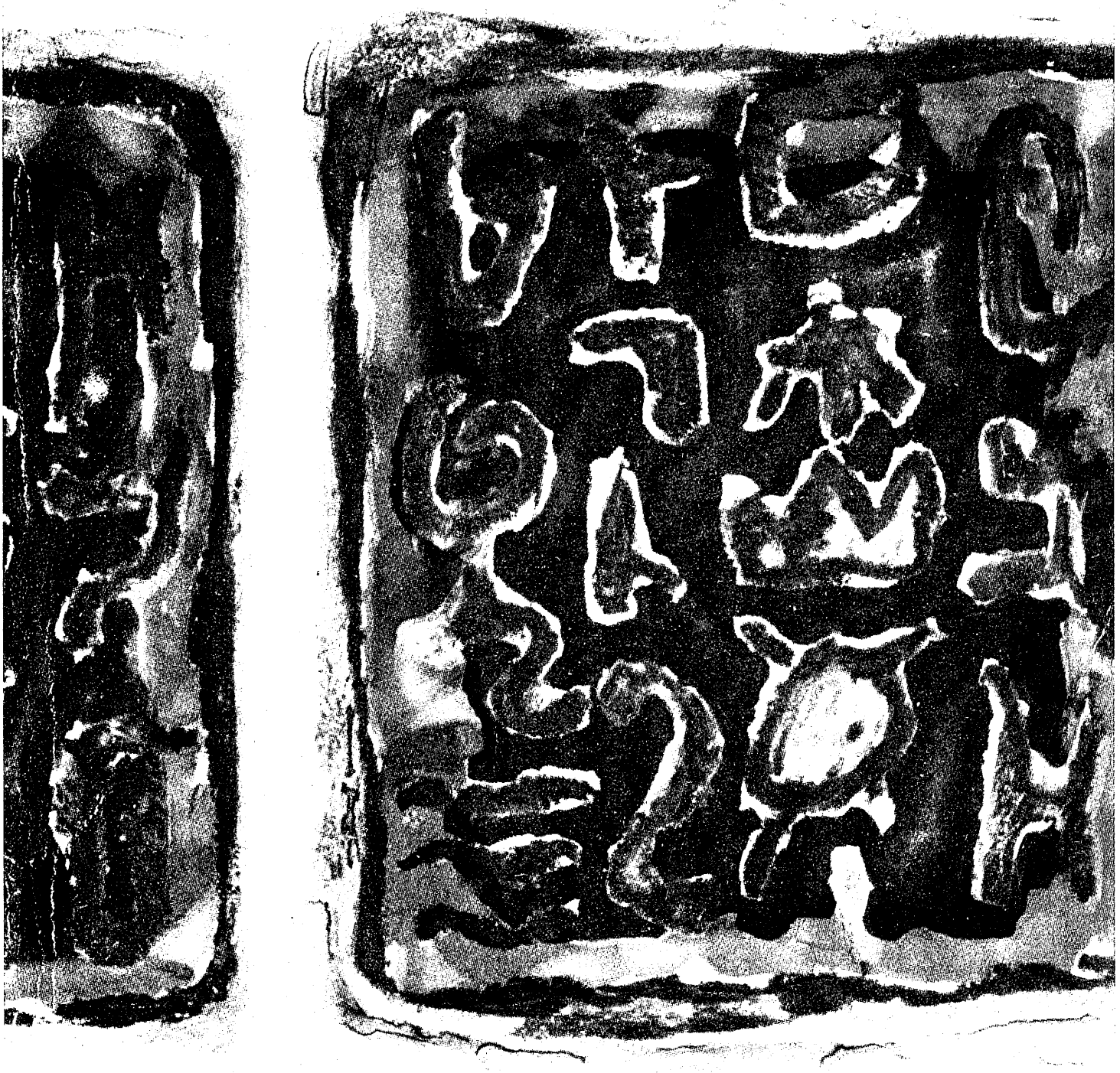
教科書から見た

明治初期の言語・文字の教育

国語シリーズ 36



文　部　省

刊行の趣旨

国語シリーズは，国語の改善と国語教育の振興に関する施策を普及徹底するために編集するものであります。

このシリーズは，国語問題編・国語教育編・国語生活編・国語教養編および資料編に分け，問題編は主として国語審議会が発表した事がらを，教育編は国語学習指導の方法などを，生活編は国民の言語生活に関する事がらを解説するものであり，教養編は一般の国語教養を高めることを，資料編は国語の改善と国語教育の振興に関する基礎的資料を集録することを目的としたものであります。

すでに教育編は 11 冊，問題編は 10 冊，生活編および教養編はそれぞれ5冊，資料編は4冊を刊行しましたが，各編にわたってひきつづき刊行する予定であります。

この本は，国語教育編の第 12 冊目として，明治初期における教科書からみた言語・文字の教育について，福岡女子大学助教授古田東朔氏に執筆を委嘱したものであります。

昭和 32 年 7 月

文部省調査局国語課長　白石大二

はじめに

「色々な国語の初歩の読本には，其(その)国々特有の色と香が極めて濃厚に出て居る。」と，寺田寅彦(とらひこ)はその随筆の中で述べています。

わが国の国語教育が，現在見るような形をとるに至ったのは比較的新しいことです。だいたいの基礎と方向とが定められたのは，明治5年（1872）の「学制」からだということができましょう。それまで行われていた漢学や寺子屋での教育とは面目を新たにして，そこでは，日常使用している国語を重視し，それを学習するということが，進むべき方向として示されたのでした。

その場合，まず参考にしたのが，それまでわが国で行われてきた外国語学習の方法であり，また外国小学校の規則でありました。しかし，この参考にしたということは，ただ，それまでの洋学の方法や，外国の規定のとおりであったというわけではありません。学制当時の小学校においては，現在の「国語科」に相当する教科目として，「綴字(カナヅカヒ)・単語(コトバ)・会話(コトバヅカヒ)・読本・習字(テナラヒ)・文法・書牘(とく)」などの科が設けられましたが，この教科目の中には，やはり，それまで寺子屋で行われていた「手習」を考慮に入れて設けたものがあります。その点，ただ外国流のやり方だけをそのとおりに行おうとしたわけではなく，従来のわが国のやり方を基礎に置きながら，適当と思われる教科を制定したものと考えられます。これらの教科は，やがてしだいに統合・整理されていくのです

が，その過程にも，また，それまでのわが国教育の形態・方法が与えている影響を見ることができます。

特に教科書の上においては，江戸期の寺子屋の教育などが与えた影響は，著しいものがあるといえましょう。学制以後外面は違った装いをしたにせよ，内面においては，やはり変らないままの点も多く見ることができます。学制当初外国の読本にならって作られた読本もありましたが，やはり，わが国のものは本質的に違ったものとならざるをえませんでした。けっきょくは日本の「色と香」をもったものでした。

それまでの教育の基礎の上に，新しい課程・方法が受け入れられたわけですが，それなら，その場合，どういうものが新しくつけ加えられ，どういうものが除かれていったのか。そして，その結果産み出されるに至ったわが国独自の「色と香」は，どういうものであったのか。この小編では，明治5年学制が発布されてから，同 13 年（1880）改正教育令が出されるまでの言語・文字の教育におけるそうした意味のことを，当時の教科書を通してながめていきたいと思います。

ところで，その場合，いうまでもなく教科書は教科目に応じて作られますから，まず第1章において，江戸期における言語・文字の教育についてながめ，次に第2章において，それと比較しながら，学制当時の「国語」に関する教科目を見ていきます。そして，次の第3章において，各教科目ごとに，その教科書をとりあげ，その意図がどんなところにあったか，結果はどんなふうであ

ったかを，具体的に見ていきたいと思います。

なお，この稿をなすにあたって，井上赳(たけし)氏「小学読本編纂(さん)史」（岩波講座国語教育），海後宗臣博士「明治初年の漢字初歩教育」（日本教育史学会紀要第1巻所収），仲新氏「近代教科書の成立」などのおかげを受ける点が大きかったことを付記します。

〔編者注〕

引用文は原則として原文のままとしましたが，漢字にはふりがなをつけました。その場合，特に注記しないかぎり，原文のふりがなはかたかなで残し，編者の加えたふりがなはひらがなで示しました。

目　　次

はじめに

第１章　江戸期における言語・文字の教育…… 1

第２章　明治初期における言語・文字に関する教科…… 8

　　1　維新から学制発布まで…… 8

　　2　学制と小学教則……10

　　3　師範学校教則……13

第３章　教科書からみた言語・文字の教育……16

　　1　国語の重視……16

　　2　綴字の学習と歴史的かなづかいの採用……20

　　3　漢字単語の学習……28

　　4　単語から文へ……34

　　5　「会話」科の意図……38

　　6　模型的文と擬古文……43

　　7　表現文法の意図と品詞論の問題……55

　　8　実用のための作文・習字……61

第４章　その意義……69

人名・書名索引……72